

工場や倉庫で人と協力して働き、店舗やオフィスなどで人と共存してサービスを提供する。次世代ロボットは、技術革新によるロボットの進化とレンタルによる多様な導入手段の提供により急速に市場が拡大している。特にサービスロボットと呼ばれるコミュニケーションロボット、清掃ロボット、配膳ロボットはコロナ禍でサービス業における人の代わりや補助を担い、需要が拡大している。

サービスロボットの

リース業界最前線

29

多くは人工知能(AI)技術を搭載し、ユーザーが簡単にセットアップできる。新型コロナウイルス感染症対策や人手不足対策として導入し、省人化を実現することで人手不足を補っている。月払いかつ解約可能なレンタルなら必要な時に導入し、不要になれば追加負担なしでいつでも解約できる。汎用性が高く、さまざまな場所で活用が可能なためレンタル物件として最適だ。契約期間を柔軟に設定できる特性を活かし、短期レンタルサ

次世代ロボ レンタル

多様な手法で最適導入



SMFLレンタル
執行役員
新規開発事業部長
大谷 康二

ビスの取り扱いも増えるケースが多い。ロボットの展示施設を構築されるロボットのえ、実機を体験できる多くは、導入後、効果が場を提供したり、選定検証できるまでに数ヶ月を要する。そのため、短期レンタルで試験導入し効果検証した後に長期レンタルやリースに切り替えて本格導入

例えば、2年間限定のプロジェクトの場合、期間に合わせた費用化が可能で、プロジェクト終了後に簿価や残存債務は残らない。また、レンタル会社は保守サービス用の予備機を保有するのが一般的ため、ユーザーはレンタル中に機器が故障した場合も予備機での代替が可能。運用中止期間を最小限にできる。モノづくりや搬送用の次世代ロボットを導

入しているユーザーはピーク時を想定して導入台数を決定しているため、繁忙差によって無駄が生じている。繁忙期に不足する台数を各テーブルをまわる。商業施設ではコミュニケーションロボットが調理し配膳ロボットが飲食店ではロボットが調理し配膳ロボットが各テーブルをまわる。商業施設ではコミュニケーションロボットが調理し配膳ロボットが各テーブルをまわる。商業施設ではコミュニケーションロボットが調理し配膳ロボットが各テーブルをまわる。

(隔週木曜日に掲載)